

令和 7 年度

筑紫野市教育委員会
点検・評価報告書

筑紫野市教育委員会

令和 8 年 5 月

1. はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し公表するため作成したものです。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の構成

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

委員の区別	氏名	性別	委員としての任期	
			任命年月日	満了年月日
教育長	主 税 保 徳	男	R 8 . 1 . 1	R10.12.31
委員	牛 川 由 美	女	R 6 . 6 . 2 3	R10.6.22
委員	久 原 寛	男	R 6 . 1 0 . 4	R10.10.3
委員	和 田 法 明	男	R 5 . 6 . 1 0	R 9 . 6 . 9
委員	高 原 朋 恵	女	R 7 . 1 2 . 2 1	R11.12.20

(2) 教育委員会会議付議事項（令和7年度）

開催日等	議案名
<p>4月25日 第5回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○筑紫野市奨学生の選考について ○学校運営協議会を設置する学校の指定について ○令和7年度学校運営協議会委員の委嘱について ○筑紫野市スポーツ推進審議会委員の委嘱について ○筑紫野市スポーツ推進審議会への諮問について
<p>5月29日 第6回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度筑紫野市教育委員会点検・評価報告書について ○令和7年度学校運営協議会委員の委嘱について ○財産（物品）の取得について ○筑紫野市社会教育委員及び筑紫野市生涯学習センター協議会委員の委嘱について
<p>6月26日 第7回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○筑紫野市立図書館協議会委員の委嘱について
<p>7月25日 第8回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和8年度使用小学校教科用図書の採択について ○令和8年度使用中学校教科用図書の採択について ○筑紫野市文化会館指定管理者の候補者の選定について ○筑紫野市スポーツ推進委員の委嘱について ○筑紫野市文化財保護審議会委員の委嘱について
<p>8月28日 第9回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度筑紫野市一般会計歳入歳出決算教育費について ○令和6年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計歳入歳出決算について ○令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第5号）教育費について ○令和7年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計補正予算（第1号）について ○筑紫野市教育支援センター及びつくし学級に関する運営規則の制定について ○筑紫野市スポーツ推進審議会規則の一部を改正する規則の制定について ○指定管理者候補者の選定について
<p>9月25日 第10回定例会</p>	<p>会議付議事項なし</p>
<p>10月30日 第11回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○筑紫野市スポーツ施設整備基本構想の策定について ○学校体育施設有料化について
<p>11月27日 第12回定例会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度筑紫野市一般会計補正予算（第6号）教育費について ○筑紫野市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について

開催日等	議案名
12月12日 第13回定例会	会議付議事項なし
1月29日 第1回定例会	○筑紫野市立学校教職員駐車場の使用に関する要綱の制定について ○筑紫野市奨学生の選考について
2月26日 第2回定例会	○令和7年度筑紫野市一般会計補正予算(第10号)教育費について ○令和8年度筑紫野市一般会計予算教育費について ○令和8年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計予算について ○筑紫野市奨学生の選考について ○令和8年度学校給食費及び給食実施回数について ○「銚之記」の市有形文化財(古文書)指定について ○筑紫野市教育委員会公印規程の改正について
3月17日 第3回臨時会	○県費負担教職員の人事に係る内申について
3月27日 第4回定例会	○令和8年度筑紫野市教育振興基本計画について ○筑紫野市教育委員会防犯カメラ等の設置及び運用に関する要綱の制定について ○筑紫野市教育委員会会計年度任用職員の任用等に関する規則の一部を改正する規則の制定について ○筑紫野市教育委員会事務局組織及び職務執行規則等の一部を改正する規則について ○筑紫野市立山家幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について ○筑紫野市奨学生の選考について ○令和7年度学校運営協議会委員の委嘱について

以上の付議事項は全て可決されました。

(3) その他の活動状況

- ①学校訪問・・・給食訪問(4校)
教育長・教育委員懇談訪問(4校)
- ②研修等・・・九州地区市町村教育委員会研修大会(1回)
福岡教育事務所教育委員等人権教育研修会(1回)
筑紫地区教育委員会教育委員研修会(1回)
筑紫野市教育委員研修会(2回)
- ③総合教育会議(3回)
- ④小中学校入学式・卒業式(16校)

3. 施策の点検・評価

基本事業名	総合計画で示された「事業名」 (教育振興基本計画掲載)	
めざす姿	総合計画で示された「めざす姿」	
成果指標	総合計画で示された「指標名」	
	現状値	目標値
	令和 6、7 年度の指標の現状値	令和 9 年度末の目標値
主な取組	教育振興基本計画で示した「主な取組」	
具体的な取組	教育振興基本計画で示した「具体的な取組」	
実績	令和 7 年度に実施した内容	
成果・課題	令和 7 年度の成果及び課題	
担当課	〇〇〇	

目標 1 子育て支援の推進

【めざす姿】

子育てが楽しく、安心して子どもを生き育てることができています。

基本事業名	幼児教育・保育の充実				
めざす姿	安心して保育所等に子どもを預け、働くことや、幼児教育を受けることができるようになっていきます。				
成果指標	待機児童数（放課後児童クラブ）				
	現状値				目標値
	R6	0人	R7	0人	0人

主な取組	放課後児童健全育成事業の推進				
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の継続的な運営を支援するとともに、利用者ニーズを踏まえたサービスの向上を図る。 ○入所希望者の増加を見据えた体制整備について広範な検討を行う。 ○特別教室等の活用促進に努めるとともに、施設の増築や老朽化対策を含めた施設整備の検討を行う。 				
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○運営を委託している NPO 法人ちくしっ子ネットワークと運営上の課題解決に向けた協議をその都度行いクラブ運営を行った。また、令和8年度から、季節保育の対象児童を全学年とする入所要件の緩和を行った。 ○支援員の賃金等の処遇改善を行い人材確保に努めたほか、特別教室の活用について事業者と協議を行ったうえで学校と調整するなど、入所希望者の増加に対応し、待機児童を発生させないよう体制整備に努めた。 ○施設の老朽化対策に係る整備計画の策定に向けた検討を行った。 				
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後児童クラブの継続的な運営により、保護者の仕事等による留守家庭への子育て支援の推進に繋がっている。 ○学校の余裕教室もなく、入所児童が増加しているクラブ(筑紫小・筑紫東小)については、新たな施設を整備する必要がある。 ○令和5年以降、毎年100名程度入所児童が増加していることから、引き続き学校施設を活用するとともに、老朽化している施設の改修や整備を進める必要がある。 				
担当課	学校教育課、教育政策課				

主な取組	幼保小連携推進のための体制構築
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○関係各課と事務局体制の検討を行う。 ○幼保小の連携に向けた学習会を開催する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小連携教育研修会 日程：令和8年1月30日（金） 対象：小学校の幼保小連携担当者 講師：原田小学校講師（元 市内小学校教頭）
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小連携教育研修会を開催し、小学校職員の幼保小連携の必要性についての理解を深め、本市の幼保小連携教育の推進を図ることができた。 ○市関係課や保育所、幼稚園との連携を深めるための方策を検討する必要がある。
担当課	学校教育課

目標 2 学校教育の充実

【めざす姿】

子どもたちが確かな学力、豊かな心、健やかな体を育みながら、充実した学校生活を送っています。

基本事業名	教育環境の整備				
めざす姿	安全で快適に学ぶことができる教育環境が整備されています。				
成果指標	学校施設の維持管理上の不具合による教育支障件数				
	現状値				目標値
	R6	0件	R7	0件	0件

主な取組	学校施設等における教育環境整備の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設・設備等の改修・更新を行う。 ○普通学級及び特別支援学級の増加に伴う教室不足の解消を図る。 ○小学校特別教室への空調整備を推進する。 ○小中学校体育館への空調設備の整備を検討するため、事前調査を実施する。 ○二日市小学校の校舎増改築、二日市東小学校の校舎増築及び長寿命化改修工事の取り組みを進める。 ○計画的に大規模改修、中規模改修に取り組み、施設の長寿命化と機能の向上を図る。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校施設管理マニュアル」を基に、日常的な点検・修理を行った。また、年1回の「定期点検」及び「劣化調査」を行った。 ○主要な学校施設・設備等を安全に使用するために、保守点検契約を行い、安全性を考慮し改修・更新を行った。 ○小中学校主な改修・更新工事 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校特別教室空調設備整備（小学校10校） ・防犯カメラ更新（小学校4校、中学校5校） ・二日市東小学校新館窓サッシ改修 ・山口小学校放送設備更新 ・原田小学校火災受信機更新 ・山口小学校、天拝中学校滅菌機設置 ・筑紫野南中学校エレベーター更新 ○小中学校体育館及び武道場への空調設備整備方針を策定し、小学校体育館空調設備の設計を実施した。 ○二日市小学校校舎増改築事業及び二日市東小学校校舎増築及び長寿命化改良事業については、実施設計が完了し、仮設校舎の建設や増

	<p>築校舎の建設工事に着手した。</p> <p>○大規模改修、中規模改修工事に係る設計を実施した。(吉木小学校教室棟、筑山中学校特別教室棟、筑紫野中学校管理教室棟)</p>
成果・課題	<p>○学校施設・設備等の改修・更新や学級増に伴う教室の改修を行うことにより、教育環境の充実を図った。</p> <p>今後も、老朽化した施設・設備の計画的な改修・更新を行い、安全で快適に学ぶことができる教育環境の整備を進める必要がある。</p> <p>○小中学校の体育館・武道場への空調整備のニーズが高まっていることから、教育活動への影響を最小限にしながら早急かつ安全に整備を進める必要がある。</p>
担当課	教育政策課

基本事業名	教職員の資質向上と働き方改革				
めざす姿	教職員が児童生徒と向き合う時間が十分に確保される働き方になるとともに、資質が向上しています。				
成果指標	授業がよくわかると思う児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
	R6	児童 84.1% 生徒 73.9%	R7	児童 77.6% 生徒 73.2%	児童 84.0% 生徒 79.0%
	児童・生徒と向き合う時間を十分に確保できている教職員の割合				
	現状値				目標値
	R6	75.0%	R7	75.0%	75.0%

主な取組	教職員不足の解消に向けた取り組みの推進
具体的な取組	○国・県へ継続して要望を行うことに加え、市独自に潜在的な人材等を確保するなど、学校人材の安定確保を図る。
実績	○福岡県教育庁に対し改善要望を行ったほか、学校人材登録フォームにより市独自の学校人材確保の取り組みを行った。
成果・課題	○教員の定数欠の状況は、全国的な教職員不足を背景として、厳しい状況が継続しており、引き続き解消に向けた取り組みを推進していく必要がある。
担当課	学校教育課

主な取組	教職員の働き方改革と資質向上の取り組みの推進
具体的な取組	○校務支援システムの導入や中学校への自動採点システムの導入等による校務DX化のさらなる推進に加え、部活動改革やスクールサポートスタッフの活用等の取り組みを推進し、児童生徒と向き合う時間や、教材研究・自己研鑽の時間の確保を図る。
実績	○校務支援システムの運用を本格的に開始し、授業での活用や校務における作業効率が改善した。 ○部活動地域移行に向けて実施方針を決定し、5月以降は文化・スポーツ振興課に所管替えし、令和8年度からの実施に向け検討を進めている。 ○引き続きスクールサポートスタッフを配置し、授業準備や運営の補助、印刷や製本、学校行事の補助など教職員の負担軽減につながっている。
成果・課題	○校務支援システム導入により、導入前・後での時間外勤務の減少時間数など、働き方改革につながっているか検証する必要がある。 ○教員用端末の破損等が発生していることに対する適切な取扱いへの意識醸成を図る。
担当課	学校教育課

主な取組	指導力向上のための校内研修の充実
具体的な取組	○指導主事が校内研修等において指導助言を行い、内容の充実を図る。
実績	○各校で開催されている校内研修等に指導主事が講師として参加し、指導助言を行った。【研修等回数】64回（R6：32回）
成果・課題	○派遣した学校においては、教員の授業改善や指導力向上につなげる研修を実施することができた。今後は、市指導主事による指導助言を積極的に活用するよう、改めて各校へ啓発していく。
担当課	学校教育課

主な取組	人権・同和教育研修の充実
具体的な取組	○教職員の人権・同和教育の理解を深める研修会を開催する。
実績	○研修会実績 ・筑紫野市新転任教職員人権・同和教育研修会 日程：第1回 令和7年4月24日（木） 第2回 令和7年5月9日（金） 場所：筑紫野市生涯学習センター 視聴覚室 講師：石丸 明彦 氏 対象：新規採用教職員、転入教職員 ・筑紫野市教職員「同和」教育夏期研修会 日程：令和7年8月22日（金） 場所：(全体会) 筑紫野市文化会館 (分科会) 筑紫野市文化会館、生涯学習センター、二日市中学校 他 講師：土田 光子 氏 対象：市内全教職員
成果・課題	○各研修会を実施することで、人権・同和教育の実践者としての資質向上を図ることができた。今後もこの取り組みを継続していく必要がある。
担当課	学校教育課

主な取組	中学校部活動の地域展開に向けた取り組みの推進
具体的な取組	○実施方針に基づき、課題整理や具体的な運用等について検討する。
実績	将来的に平日を含めたすべての活動を学校管理外の地域活動（社会教育）へ移行することを見据え、令和7年5月に社会体育・社会教育を所管する「文化・スポーツ振興課」に所管を変更したものの、学校教育課長及び指導主事が実行委員会の委員を務めるなど、地域展開の推進に向けて継続的に関与した。
成果・課題	部活動地域展開の進め方を実行委員会（R8も学校教育課長及び指導主事は委員として参加）でより具体的に決定し、令和10年度までに完了できるよう、所管課と連携して取り組んでいく。
担当課	学校教育課

基本事業名	確かな学力の育成				
めざす姿	学習意欲が向上し、自ら考え、解決する力が育っています。 ICT環境が整備され、児童生徒のICTの活用能力が向上しています。				
成果指標	児童・生徒の学力定着度（国語）				
	現状値				目標値
	R6	児童 107.8 生徒 101.5	R7	児童 104.8 生徒 103.1	児童 108.0 生徒 105.0
	児童・生徒の学力定着度（算数・数学）				
	現状値				目標値
	R6	児童 105.7 生徒 104.8	R7	児童 101.7 生徒 101.4	児童 105.0 生徒 110.0
	授業でのICT機器の活用頻度				
現状値				目標値	
R6	75.0%		R7	81.3%	85.0%

主な取組	児童・生徒の学力実態に応じた指導方法の工夫・改善
具体的な取組	○全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査及び市学力検査を実施し、指導方法の工夫・改善に努める。
実績	○「全国学力・学習状況調査」（文部科学省） 日程：令和7年4月17日（木） 対象：小学校第6学年【教科：国語・算数・理科】 中学校第3学年【教科：国語・数学・理科】※理科はCBT
	○「福岡県学力調査」（福岡県教育委員会） 日程：令和7年5月19日（月）～6月13日（金）※CBT実施 対象：小学校第5学年【教科：国語・算数】 中学校第1学年【教科：国語・数学】 中学校第2学年【教科：国語・数学・英語】
	○「市学力検査」（筑紫野市教育委員会） 日程：令和8年1月の学校が指定した日 対象：小学校全学年【教科：国語・算数】
	日程：令和7年4月の学校が指定した日 対象：中学校全学年【教科：5教科】
成果・課題	○調査結果等を活用し、指導方法の改善につなげることができた。今後も、児童・生徒の学習意欲の向上につながる授業改善や指導方法の研究をすすめる。
担当課	学校教育課

主な取組	I C Tを活用した教育の推進
具体的な取組	<p>○児童生徒のタブレット端末の更新をはじめとした I C T 環境の充実を図り、I C T を活用した教育活動を更に推進する。</p> <p>○I C T 支援員の配置等、学校への I C T 支援派遣体制を継続し、より円滑に I C T 機器を活用した教育が行えるよう支援する。</p>
実績	<p>○筑紫野市 ICT 活用教育研修会 対象者：市内各校の ICT 活用教育担当者 日程：令和 7 年 5 月 1 日（木）【第 1 回】 令和 7 年 7 月 7 日（月）【第 2 回】 令和 7 年 11 月 18 日（火）【第 3 回】 令和 7 年 8 月 4 日（月）【特設】※新端末導入に向けた研修 講師：筑紫地区市立学校校長、筑紫地区私立高校職員、Google 講師</p> <p>○筑紫野市 ICT 活用 ST 委員会 日程：年間 1 0 回開催 内容：筑紫野市の教育 DX 化推進に関する協議 ・校務ネットワーク環境構築等に関する協議、意見交換 ・学習場面における効果的活用に関する協議、意見交換 ・児童生徒用端末の更新に関する協議、意見交換 等</p> <p>○ICT 活用教育授業改善訪問 日程：7 月～12 月にかけて市内全校で実施 内容：I C T を活用した公開授業及び研究会を校内研修として位置づけ</p>
成果・課題	<p>○各校におけるより良い取組を共有し、それぞれの学校の取り組みに広げることができた。</p> <p>○今後は、タブレットの利活用を目的とする授業から、授業におけるタブレットの効果的な利活用に関する取り組みをさらに進める必要がある。</p>
担当課	学校教育課

基本事業名	豊かな心の育成				
めざす姿	人を思いやり、尊重する心が育まれるとともに、自ら考え、正しく判断できる力が養われています。 不登校等の課題を抱える児童生徒が適切な支援を受けられるようになっています。				
成果指標	児童・生徒の道徳的実践力の定着度				
	現状値				目標値
	R6	児童 88.1% 生徒 88.6%	R7	児童 87.8% 生徒 86.9%	児童 87.0% 生徒 87.6%
	「いじめ」はあってはならない事だと認識している児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
	R6	児童 80.4% 生徒 76.5%	R7	児童 82.3% 生徒 80.3%	児童 87.0% 生徒 94.0%
	不登校児童・生徒のうち、解消・復帰等の改善がみられた児童・生徒の割合				
現状値				目標値	
R6	児童 78.4% 生徒 63.2%	R7	児童 77.0% 生徒 58.9%	児童 84.0% 生徒 70.0%	

主な取組	いじめ・不登校のための組織的・総合的な指導體制の構築
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○市適応指導教室「つくし学級」の教育支援センター化による相談機能等の充実や、登校支援員の増員など、不登校支援の体制強化を図る。 ○生徒指導に関する相談体制の充実及び相談機関等の周知を図る。 ○いじめ・不登校に関する研修会の実施、中学校ブロックを基盤とした小中学校、外部機関連携による不登校対策の組織的な取り組みを推進する。 ○ICTを活用した在宅学習の実施やフリースクールの利用者に対する関係機関との連携を行う。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度対応件数 スクールカウンセラー：61件（R6：217件） スクールソーシャルワーカー：2,352件（R6：2,123件） 教育支援センター相談（R7.10～）：27件 ○いじめ・不登校等対策研修会 対象者：各校生徒指導担当、登校支援員、つくし学級、SSW 日程：令和7年5月29日（木）【第1回】 令和7年10月23日（木）【第2回】 令和8年2月12日（木）【第3回】 講師：福岡教育事務所指導主事、こども家庭センター
成果・課題	○多岐にわたる内容に関する相談に対応し、児童・生徒及び保護者

	の心理的な負担感を軽減することができた。今後も、各学校における組織的な取り組みを更に推進していく研修等を実施していく。
担当課	学校教育課

主な取組	道徳教育推進教師を核とした推進体制の整備及び学校の全教育活動全体を通じた道徳教育の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動や人権教育を柱とした道徳的実践力の充実を図る。 ○児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業づくりの工夫、改善に努める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡県重点課題研究により開発された情報モラルカリキュラムの市内全校での実施。 ○福岡県事業「保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業」の積極的活用によるインターネット適正利用に関する学習機会の充実。 ○家庭や地域と連携した道徳教育の実践と、地域資源の活用の推進。
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラル教育や保護者と連携した取り組みを通して、インターネットの適正利用に関する意識の向上や、家庭内における適正利用についての話し合いの促進が図られた。 ○情報モラルや規範意識に関する指導については、家庭の理解や関わりに差が見られることから、より効果的な連携の在り方について工夫が必要である。
担当課	学校教育課

基本事業名	健やかな体の育成				
めざす姿	心身ともに健康な体が育っています。				
成果指標	児童・生徒の体力定着度				
	現状値				目標値
	R6	児童 33.1% 生徒 44.8%	R7	児童 30.5% 生徒 48.3%	児童 38.0% 生徒 50.9%
	健康に関する基本的な生活習慣が身につけている児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
	R6	児童 90.0% 生徒 86.2%	R7	児童 88.4% 生徒 89.2%	児童 90.0% 生徒 90.0%
	調理場の維持管理上の不具合による給食提供支障件数				
	現状値				目標値
R6	0 件	R7	0 件	0 件	

主な取組	体力向上プランの実施による健康な体の育成
具体的な取組	○実行性のある「体力向上プラン」や「体育・健康・食に関する指導計画」の作成を推進する。
実績	○全ての小中学校において、各校の実態に応じた「体力向上プラン」及び「体育・健康・食に関する指導計画」を作成し、実行した。
成果・課題	○計画的に体力向上に向けた取組を実施し、健康や食に関する指導を行なうことができた。今後も、実効性のある「体力向上プラン」を作成していく必要がある。
担当課	学校教育課

主な取組	適切な施設維持管理による安全安心な給食の提供及び食育の推進
具体的な取組	○調理場の施設設備の改修及び調理機器等の修繕・更新を行い、安全で安心な給食の提供により児童生徒の食育を推進する。 ○学校と連携して食に関する指導を行い、食育だより等で児童生徒及び保護者に食の大切さを伝えるよう取り組む。
実績	○配送室（コンテナ室）に空調設備を新設したことで、衛生環境が向上し、安全で安心な給食を提供することができた。 ○「食育だより」を年 11 回発行した。 ○「食に関する指導」 全小学 3 年生に「バランスの良い食事について」、全小学 5 年生に「朝ごはんの大切さ」、中学校 1 校の 1 年生に「成長期に特に必要な栄養素と学校給食」について、栄養教諭が給食時間に訪問指導を実施した。 ○「交流給食」

	全小学1年生 32 クラスに調理員が給食時間に訪問し、『給食ができるまで』について DVD を使用して説明した。
成果・課題	○学校と連携して給食時間に訪問し、食に関する指導を実施することで食への関心を高めることができた。今後も給食訪問等により継続して食の大切さを伝えていく必要がある。
担当課	学校給食課

基本事業名	きめ細やかな教育支援の推進				
めざす姿	子どもの特性や状況に応じた教育が受けられるようになっています。				
成果指標	障がいの特性に応じた適切な教育を受けることができている児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
	R6	児童 100% 生徒 100%	R7	児童 100% 生徒 100%	児童 100% 生徒 100%
	就学支援（支給）が必要な児童・生徒への支援対応割合				
	現状値				目標値
	R6	100%	R7	100%	100%

主な取組	個別の教育支援計画・指導計画の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の教育支援計画・指導計画の作成状況を把握し、内容や実施方法への指導助言を行う。 ○特別支援教育に係る授業力量の向上を目指した研修を実施する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校における個別の教育支援計画・指導計画の作成状況について調査した。特別支援学級在籍の児童・生徒に関する個別の教育支援計画・指導計画については、必要に応じて、内容・活用等に関する指導助言を行った。 【令和7年度作成数】 小学校：803名（R6：726名） 中学校：227名（R6：236名） ○特別支援教育充実のための研修（オンデマンド） 対象：小中学校教員 視聴期間：令和7年5月12日（月）～6月13日（金） ○新任特別支援学級担任研修会 対象：本年度初めて特別支援学級の担任となった者 期日：【第1回】令和7年6月20日（金） 【第2回】令和7年10月29日（水） 講師：市内特別支援学級で中核を担う教員（7名） ○特別支援学級授業研修会 対象：小中学校特別支援学級担任（各校2名以上） 期日：令和7年11月11日（火） 講師：市内小学校主幹教諭 ○通級指導教室担当者研修会 対象：各小中学校通級指導教室担当者 期日：令和7年10月9日（木） 講師：公認心理師（元 筑紫地区小学校教頭）
成果・課題	○児童・生徒の支援体制や支援方法について関係者で共有することができた。また、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた指導

	を計画的に実施することができた。今後も、各校における特別な配慮を必要とする全ての児童・生徒についての作成を指導していく。
担当課	学校教育課

主な取組	特別支援教育推進体制の充実
具体的な取組	○特別支援教育支援員の増員を継続し、支援体制を強化する。
実績	○特別支援教育担当指導主事 配置数：2名（令和6年度：2名） ○特別支援教育支援員 配置数：79名（令和6年度：70名）
成果・課題	○担当指導主事の複数名配置により、きめ細やかな就学相談の実施、教職員の資質向上に係る研修の企画・運営の充実に資することができた。 ○支援員の増員により、特別支援学級在籍の児童生徒への個に応じた支援を実現することができた。
担当課	学校教育課

主な取組	経済的理由により就学支援が必要な児童生徒への支援
具体的な取組	○経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費などを援助する。
実績	○教育を受ける権利を保障するため、市立小中学校に通学する上で、経済的な理由によって学用品費や給食費など、学校での学習に必要な費用の支払いに困る保護者に対してその費用の援助を行った。 【支給人数】 小学校：843人（R6：904人） 中学校：552人（R6：514人）
成果・課題	○入学前の早期申請受付により、入学準備等費用が必要となる時期に支給を行った。 ○特別支援教育就学奨励費単価の引き上げに伴い支給単価を増額し、支援の必要な児童生徒の保護者に対して援助ができた。また、こども医療費拡大にあわせて他課と連携し、事業を進めることができた。
担当課	学校教育課

主な取組	経済的理由により進学等が困難な学生への支援
具体的な取組	○経済的理由によって進学等が困難な高校生、大学生に対し、在学中の学業資金を貸与する。
実績	○就学の意欲があるにも関わらず、経済的理由によって進学又は就学が困難な生徒に対し、奨学金と入学支度金の貸与を行った。 【新規貸与人数】 高校生5人（R6：3人） 大学生2人（R6：2人）
成果・課題	○各中学校進路指導担当者に奨学金の説明を行い、保護者、生徒への

	周知を図ったことで奨学金が必要な生徒への貸与ができた。 今後も、奨学金が必要な生徒に対して、確実に周知を行っていく必要がある。
担当課	学校教育課

基本事業名	地域と学校の協働促進				
めざす姿	地域の人材や学習資源が活かされ、地域の教育力が向上するとともに、地域と共に開かれた学校づくりが進められています。				
成果指標	学校活動に協力してくれた市民の割合				
	現状値				目標値
	R6	7.0%	R7	6.2%	11.0%
	コミュニティ・スクールによる地域連携教育活動数				
	現状値				目標値
R6	112件	R7	122件	80件	

主な取組	コミュニティ・スクールの活動の充実及び地域学校協働活動の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校の学校運営協議会へ出席し、コミュニティ・スクールの取り組み状況を把握する。 ○地域学校協働活動推進員と連携した事業の推進を行う。 ○学校・地域や関係機関等と連携した安全対策を継続する。 ○児童生徒の地域貢献活動の推奨及び地域住民や保護者へのコミュニティ・スクールの取り組みの啓発に努める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○開催された各学校の学校運営協議会に出席し、それぞれの学校の活動内容を把握するとともに、他校で取り組んでいる事例の紹介などを行った。 ○関係者を対象とした市主催研修会の教職員向けオンデマンド配信子どものための地域・学校・家庭の連携推進セミナー（令和7年9月19日配信） 講師：文部科学省CSマイスター、市生涯学習コーディネーター
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と地域で育てる子どもの将来像について共有するとともに、地域人材を外部講師として招聘する授業を実施することができた。 ○地域学校協働活動推進員と連携し、コミュニティ・スクールの更なる推進に向けて、地域、学校、保護者の共通理解を深めていく必要がある。
担当課	学校教育課

目標3 子ども・若者の健全育成

【めざす姿】

豊かな人間性や志を持ち、たくましく生きる力を備えた子ども・若者が育成されています。

基本事業名	子ども・若者の学習機会・体験活動の充実				
めざす姿	体験活動、社会参加、世代間交流等の子ども・若者が生まれ、成長する機会が充実しています。				
成果指標	家庭・地域での子どものための活動が充分だと思ふ市民の割合				
	現状値				目標値
	R6	56.4%	R7	53.5%	57.7%
	学校の授業以外で体験活動をしている児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
R6	児童 91.8% 生徒 97.8%	R7	児童 94.3% 生徒 98.8%	児童 92.0% 生徒 91.0%	

主な取組	子どもが主体となる事業の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体験活動を自主的に行う子ども会活動の活性化を図るため、「地域子ども会」へ補助金制度の周知に努めるとともに、筑紫野市子ども会育成会連絡協議会の活動を支援する。 ○BGレンジャー等の事業の周知を行うとともに、事業を計画している地域の団体等に対して助言や支援を行う。 ○各種講座事業による学習機会・体験活動の充実に努める。 ○市ホームページやSNS等を活用し、子どもの体験活動に関する情報発信に努める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○地域子ども会活動補助金の交付 交付子ども会:45 子ども会 2,981 人 (R6 実績:50 子ども会 3,237 人) 交付額:2,388,220 円 (R6 実績:2,377,460 円) ○BG レンジャー補助金の交付 交付数:4 実行委員会 (R6 実績:3 実行委員会) 内訳:「夏休み思い出づくり」(湯町区) 3 年目 「うんこオリンピック実行委員会」(古賀区) 2 年目 「児童福祉応援実行委員会」(宮の森区) 2 年目 「東っ子防災レンジャー実行委員会」(俗明院区) 1 年目 ○各種講座事業による体験活動 ちくしの文化講座、竜岩自然の家主催講座、コミュニティセンター主催講座等において子どもを対象とした学習・体験講座を開催した。

	<p>(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちくしの文化講座：実施回数 18 回、受講延人数 345 人 (R6 実績:実施回数 7 回、受講延人数 140 人) ・竜岩自然の家主催講座：実施回数 35 回、受講延人数 651 人 (R6 実績:実施回数 35 回、受講延人数 723 人) ・コミュニティセンター主催講座：実施回数 141 回、受講延人数 1,936 人 (R6 実績:実施回数 136 回、受講延人数 1,966 人) <p>○子どもの体験活動に関する情報発信 子ども向けの体験活動等の情報を市ホームページや SNS 等で発信するとともに、小学校を通じてチラシの配布を行うほか、保護者向け通信アプリ「tetoru」を活用して、情報発信を行った。</p>
<p>成果・課題</p>	<p>○地域子ども会活動補助金 近年交付子ども会数が減少傾向にあり、子ども会活動活性化のために、情報提供等を工夫する必要がある。</p> <p>○各種講座事業による学習機会・体験活動の充実を図る必要がある。</p> <p>○補助金制度の周知・交付や、子どもの体験活動等の情報発信を行った。引き続き、市ホームページや SNS を活用し、情報発信を進めるとともに、市ホームページ等で子ども向け記事の充実を図る必要がある。</p>
<p>担当課</p>	<p>生涯学習課</p>

基本事業名	子ども・若者が自分らしくいられる地域づくり			
めざす姿	家庭と学校、地域の連携のもと、子ども・若者が安心して集い、悩みを打ち明け、交流できる場がつけられています。			
成果指標	子ども・若者が安心して過ごせる場がつけられていると思う市民の割合			
	現状値		目標値	
	R6	47.8%	R7	42.2%
	子ども・若者の悩みに関する相談対応件数			
	現状値		目標値	
	R6	807件	R7	609件

主な取組	子ども・若者が安全で安心できる活動拠点（居場所）づくりの促進
具体的な取組	<p>○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に取り組むとともに、学校やコミュニティの関係者等を対象とした研修会を適宜実施する。</p> <p>○子ども・若者が安全に利用できる場所として青少年プラザのより一層の活用を図るなど、子ども・若者の居場所づくりを進める。</p>
実績	<p>○地域と学校のつなぎ役である地域学校協働活動推進員（以下「推進員」という。）を19名から21名へ増員した。また、推進員が一堂に会する推進員協議会を定期的で開催し、推進員同士の情報交換や研修等を行った。さらに地域や学校関係者を対象とした研修会を行うとともに、市広報紙や市ホームページ等で周知を行った。</p> <p>○青少年プラザにおいて、読み聞かせ団体による読み聞かせを実施（R7:34回実施）。青少年の相談窓口の情報やレクリエーションのチラシを提供している。</p>
成果・課題	<p>○推進員については、各小中学校に1名以上の配置をしているが、活動の充実や継続性の確保を図るため、1校当たり2名以上の配置を進める必要がある。また、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する必要がある。</p> <p>○子どもが安心して、より快適に過ごせる居場所として、青少年プラザなど既存施設の活用を図り、子ども・若者の居場所づくりを進める必要がある。</p>
担当課	生涯学習課

主な取組	子ども・若者を取り巻く問題の解決
具体的な取組	○ヤングテレフォンの周知を図るため、チラシやPRカードの配布や、市ホームページの掲載内容の充実を図る。また、国や県等が行う子ども・若者の相談窓口（SNS等）の周知も図る。
実績	○ヤングテレフォン相談事業 相談件数 電話：609件（R6：807件） メール：7件（R6：8件） PRカードの配布：11,885枚（R6：11,862枚） 啓発チラシの配布（就学時健診時）：1,050枚（R6：1,040枚）
成果・課題	○従来通り、青少年自身や保護者の悩み相談に対して、傾聴を実施した。内容によっては、関係課・機関へ情報提供し、医療的な悩み等については、専門機関を紹介した。ヤングテレフォンのチラシやPRカードは、学生や保護者だけでなく、不登校生徒関係者に配るほか、中高生のスマートフォン普及状況を踏まえ、QRコードをポスター等に掲載した。PRカードを小中学校だけでなく市内の高校4校の1年生にも配付した。また、小中学校の児童・生徒用タブレット端末のデスクトップにヤングテレフォンホームページへのショートカットキーを設定している。令和7年度は保護者向け通信アプリ「tetoru」を活用して周知を図った。引き続き、ヤングテレフォンや国県等の相談窓口の周知を図る必要がある。
担当課	生涯学習課

基本事業名	子ども・若者が安心して健全に成長できる環境づくり			
めざす姿	事件や事故に巻き込まれることなく、子ども・若者が健やかに成長しています			
成果指標	少年の検挙・補導人数			
	現状値		目標値	
	R6	37人	R7	37人

主な取組	学校、家庭、地域等と連携した子ども・若者の健全育成及び非行防止活動の推進			
具体的な取組	<p>○市民の期待に沿う非行防止活動が実施されるよう、青少年指導員・少年補導員への継続的な支援を実施する。</p> <p>○インターネット関連の犯罪を防ぐため、関係機関等と情報共有・連携を図り、必要な支援・処置を行う。</p>			
実績	<p>○青少年指導員 54人 活動回数 720回 内、役員・幹事会 5回 (R6 実績:活動回数 651回 内、役員・幹事会 5回)</p> <p>○少年補導員 21人 定例会 12回 (R6 実績:定例会 12回)</p> <p>○安全安心まちづくり推進協議会少年非行防止分科会 ネット犯罪被害防止に関するチラシ配布: 4,116枚 (中学一年生: 1,016枚、全中学生: 3,100枚) (R6 実績: 2,021枚) 防犯教室 DVD の配布: 小中学校に各1枚</p>			
成果・課題	<p>○地域活動の実施や啓発リーフレット等を配布した。 今後も、団体の特性に合わせた活動を実施していく。</p> <p>○青少年指導員・少年補導員 夜間一斉パトロールを所属地でのパトロール活動と併せて行った。 (夏季:雨天のため中止、冬季:164人参加) 青少年指導員会の教育講演会 (115人参加) を開催し、外部講師による、SNS が与える影響についての講話を行った。引き続き市民の期待に沿う非行防止活動が実施されるよう、青少年指導員・少年補導員への継続的な支援を実施していく。</p> <p>○安全安心まちづくり推進協議会少年非行防止分科会 SNS やオンラインゲームに起因したネット犯罪被害防止に関するチラシを作成し、冬休みを控えた中学1年生と春休みを控えた全中学生に配布した。また、ネット犯罪や薬物、性犯罪等の被害及び非行を防止することを目的に、各学校において活用してもらうための防犯教室DVDを作成し、小中学校に配布した。引き続き関係機関等と情報共有や連携を図りながら、子どもたちの健全な成長のために必要な支援を実施していく。</p>			
担当課	生涯学習課			

目標 4 スポーツの振興

【めざす姿】

スポーツ・レクリエーション活動をする市民が増えています。

基本事業名	スポーツ施設の充実				
めざす姿	スポーツ施設の充実により、スポーツをする環境が整っています。				
成果指標	スポーツ施設満足度				
	現状値				目標値
	R6	66.5%	R7	66.4%	70.0%

主な取組	スポーツ施設・設備の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な改修工事と保守を実施し、施設を良好な状態に保つための維持管理に努める。 ○備品等を計画的に購入し、設備の充実に努める。 ○現在無料であるスポーツ施設や学校体育施設については、受益者負担の観点から、施設利用料の徴収を検討し、スポーツ施設の利便性につながる整備等、スポーツの振興につながる取組を検討する。 ○新たなスポーツ施設の整備については、総合体育館を優先的に検討するため、その必要性も含めて、スポーツ施設整備基本構想の策定に取り組む。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○筑紫運動広場第2駐車場のフェンスネット改修工事 ○勤労青少年ホーム空調修繕工事 ○冷風機の設置(農業者トレーニングセンター) ○各小学校の吊り下げ式バスケットゴールの保守点検を実施した。 ○総合体育館をはじめとした新たなスポーツ施設の整備に向けて、スポーツ施設整備基本構想を策定した。
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○設備の改修や機器の更新を行うことで、熱中症や怪我・事故を防止する等、安全にスポーツができる環境を提供することができたが、老朽化の進んだ施設・設備が多いことから、利用者に危険が及ぶことのないよう計画的な改修や保守作業を実施する必要がある。 ○学校体育施設使用料の有料化については、利用者等の意見をより詳細に汲み取り、今後の方向性を検討する必要がある。
担当課	文化・スポーツ振興課

主な取組	施設の管理・運営の効率化
具体的な取組	○指定管理者による質の高いサービスを提供する。
実績	○指定管理者の更新における長期継続契約(R8～R12)を締結した。 ○施設の管理・運営状況等について、毎月指定管理者と協議を行った。 ○農業者トレーニングセンターの利用料支払いについて、一部キャッシュレス決済を導入した。
成果・課題	○利用者の更なる利便性向上のため、オンライン予約やキャッシュレス決済の導入を進める必要がある。
担当課	文化・スポーツ振興課

基本事業名	スポーツ団体・指導者・ボランティアの育成			
めざす姿	スポーツ・レクリエーションの指導者・ボランティアが養成され、市民や地域のニーズに対応できるようになっています。			
成果指標	養成講座により養成された指導者・ボランティア数			
	現状値			目標値
	R6	243人	R7	288人
	スポーツ・レクリエーション指導者数（有資格者）			
	現状値			目標値
	R6	217人	R7	229人
	スポーツ・レクリエーション指導者の充足度			
現状値			目標値	
R6	50.9%	R7	51.4%	

主な取組	スポーツ指導者・ボランティアの育成
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ協会をはじめとする関係団体と連携協議しながら、人材発掘や活動場所の提供につながる仕組みづくりを検討する。 ○スポーツ協会が開催している少年スポーツ指導者研修や体協研修の充実に向けて、支援、協力する。 ○スポーツ推進委員を育成するため、各種研修会への参加を支援する。 ○新たな指導者を確保するため、指導者資格取得支援を行う。 ○学校やスポーツ協会等と協力し、中学校部活動指導員の配置体制を構築する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○「生涯スポーツセミナー」 日時：令和7年6月28日（土） 参加者人数：111人 ○「スポーツ・レクリエーション講習会」 日時：令和7年5月28日（水）～6月18日（水）計4回 延べ参加者人数：53人 ○「スポーツ推進委員研修会」 日時：令和7年4月20日（日） 参加者人数：20人 ○「あそびバ！指導者養成講習会」 参加者人数：8人
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ・レクリエーション講習会を通じ、学んだ知識や技術を地域等で実践できる指導者の育成に努めた。 ○スポーツ推進委員を地域で行うスポーツイベントに派遣し、競技の紹介、ルールや審判の指導を行った。 ○あそびバ！のイベントを通じて、指導者養成講習会を実施した。 ○スポーツ協会が開催している少年スポーツ指導者研修や体協研修の充実に向けて、支援、協力する必要がある。
担当課	文化・スポーツ振興課

基本事業名	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進				
めざす姿	市民の年齢や体力に応じたスポーツをする機会が充実しています。				
成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満）				
	現状値				目標値
	R6	91.4%	R7	92.6%	91.0%
	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上）				
	現状値				目標値
	R6	89.8%	R7	88.9%	92.0%
	学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合				
	現状値				目標値
	R6	52.6%	R7	53.9%	61.4%
	親子でスポーツをしている市民の割合				
	現状値				目標値
	R6	46.4%	R7	45.8%	49.5%

主な取組	スポーツイベント、教室の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツイベントを充実し、参加人数を増加させることでスポーツの普及を図る。 ○地域スポーツイベントを支援する。 ○市内小学校でニュースポーツ体験会を開催し、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの普及に努める。 ○スポーツ協会と連携し、気軽に参加できるスポーツや運動教室を開催する。 ○プロスポーツチームと締結したフレンドリータウン協定に基づき、観戦イベント、体験型イベント等を実施する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○「アビスパ応援デー」 日時：令和7年4月6日（日） 参加人数：232人 ○「いきいきニュースポーツ広場」 日時：令和7年6月1日（日） 参加人数：41人 ○「筑紫野市民水泳大会」 日時：令和7年6月15日（日） 延べ参加人数：94人 ○「各小学校区市民体育祭、スポーツイベント」 開催場所：10校区 ○「スポレクフェスタ 2025」 日時：令和7年9月28日（日） 延べ参加人数：2,373人 ○「天拝山ロードレース大会」 日時：令和7年11月30日（日） 参加人数：636人 ○「ライジングゼファー応援デー」

	<p>日時：令和7年12月13日（土） 参加人数：497人</p> <p>○「ブラインドサッカー教室」</p> <p>日時：令和7年12月21日（日） 参加人数：23人</p> <p>○「あそびバ！in 筑紫野」</p> <p>日時：令和8年2月21日（土） 参加人数：194人</p> <p>○「筑紫野市駅伝大会」</p> <p>日時：令和8年3月15日（日） 参加人数：130人</p>
成果・課題	<p>○ブラインドサッカー教室を開催することで、障がい者スポーツに触れる機会を新たに設けた。</p> <p>○市内小学校でニュースポーツ体験会を開催し、誰でも気軽にスポーツに参加できる機会の提供に努めた。</p> <p>○スポーツイベントに参加しやすい開催日時や競技内容等を検討する必要がある。</p>
担当課	文化・スポーツ振興課

主な取組	スポーツ情報の発信・提供
具体的な取組	○市民がスポーツに興味を持つきっかけづくりにつながるように、市主催のスポーツイベントや各種スポーツ団体の活動内容等をホームページやSNS等を活用して情報発信する。
実績	<p>○各種イベントの開催時に、市の広報媒体を使用し周知を行った。</p> <p>○SNSでの情報発信時に「#ちくスポ」をタグ付けすることでより多くの市民に関心を持ってもらえるよう努めた。またスポーツ団体にも「#ちくスポ」をつけて情報発信するよう依頼した。</p> <p>インスタへの投稿：20件</p>
成果・課題	○より多くの市民に参加してもらえるように、引き続き情報発信や「#ちくスポ」の普及に努める必要がある。
担当課	文化・スポーツ振興課

目標 5 生涯学習社会の推進

【めざす姿】

個人や地域ニーズに応じた学習を行う市民が増加し、学習成果が家庭・地域で活かされています。

基本事業名	学習機会の充実				
めざす姿	市内での学習機会が充実し、誰もが参加できるようになっています。				
成果指標	生涯学習に関する講座・教室等の満足度				
	現状値				目標値
	R6	86.8%	R7	87.5%	91.0%

主な取組	魅力ある学習機会や情報の提供
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○自治公民館主催事業及びコミュニティセンター主催事業は、講座内容の改善を進め、さらにはコミュニティ運営協議会・コミュニティセンターとの連携を引き続き推進する。 ○高年大学事業をちくしの文化講座事業（ちくしるキャンパス）に統合することで、高年大学事業の内容も取り入れた、多世代が交流する、生涯を通じた学びの場をつくるとともに、学びを通じた幅広い世代の仲間づくりを支援する。 ○社会課題であるデジタルディバイド（情報格差）解消に向けて、パソコン・スマホ講座を引き続き開催する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○自治公民館主催事業 講座数 48 回 開催公民館 19 館 受講延人数 804 人 (R6:講座数 34 回 開催公民館 18 館 受講延人数 615 人) ○コミュニティセンター主催事業 講座数 66 回 実施回数 451 回 受講延人数 7,328 人 (R6:講座数 71 回 実施回数 451 回 受講延人数 7,032 人) ○ちくしの文化講座事業 講座数 114 回 実施回数 99 回 受講延人数 1,362 人 (R6:講座数 82 回 実施回数 86 回 受講延人数 1,362 人)
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各種講座を実施した。 ○自治公民館主催講座・コミュニティセンター主催講座 引き続き講座内容の改善を進めるとともに、コミュニティ運営協議会・コミュニティセンターとの連携を推進する必要がある。 ○ちくしの文化講座 令和 6 年度から、従来の趣味・教養を中心とした内容に留まらず、地域の人材育成等も視野に入れた講座カリキュラム「ちくしるキャンパス」を開講しており、令和 7 年度は高年大学事業と統合して実施

	<p>した。学んだ成果を自分以外の人や地域で活用し、世代を超えた交流など多様な人とのつながりによって、生きがい、やりがいを見つけ、誰もが生き生きと活動できる学びの場をつくる必要がある。また、デジタルディバイド解消のため、引き続きパソコン・スマホ講座を重点的に実施する必要がある。</p>
担当課	生涯学習課

基本事業名	地域で活躍する人材の発掘と育成			
めざす姿	地域で活躍できる人材が育成され、主体的な活動が進んでいます。			
成果指標	地域活動の担い手の発掘・育成人数			
	現状値		目標値	
	R6	7,832 人	R7	8,454 人

主な取組	人材育成と地域交流の推進
具体的な取組	<p>○家庭教育事業は、学校で学ぶことの意義も踏まえながら、学習方法やより参加しやすい運営手法を検討していく。</p> <p>○ボランティアの派遣・紹介事業については、ボランティアバンクの会と共に、持続可能な事業手法について検討するとともに、情報発信に努める。</p>
実績	<p>○はぐくみキャンパス（家庭教育事業） 「家庭教育学級」 学級数:11 学習会回数:77 回 (R6:学級数 12 学習会回数 67 回)</p> <p>「つぼみカフェ」 参加人数:15 人 学習会:5 回 (R6:参加人数 15 人 学習 4 回)</p> <p>○生涯学習ボランティア事業 ボランティアバンク登録者数 ・登録者数:個人 319 人 (R6:327 人) 団体 18 (R6:17) ・派遣件数: 103 件 (R6:132 件) ・ボランティア活動者数:のべ 637 人 (R6:714 人) ・市民利用者数:のべ 18,096 人 (R6:23,960 人)</p>
成果・課題	<p>○学習会の開催やボランティアバンクの会と事業を推進した。</p> <p>○家庭教育事業 引き続き学習方法やより参加しやすい運営手法を検討するとともに、事業の周知、運営スタッフの確保に努めていく。</p> <p>○生涯学習ボランティア事業 引き続きボランティアバンクの会と連携して取り組むとともに、情報発信に努めていく。</p>
担当課	生涯学習課

主な取組	リーダーとなる子どもや指導者の育成
具体的な取組	<p>○市及び市子連ホームページを活用して、指導者育成や子ども会運営に役立つ情報提供を行う。</p> <p>○指導者育成を行う市子連活動を支援する。</p>
実績	○育成会研修会

	<p>子ども会活動に活かせるアイスブレイクや、子ども会と育成会のあり方について研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新子ども会リーダースクール 実施日:中止 ○筑紫野市子ども会育成会連絡協議会補助事業 495,000 円 (R6:495,000 円)
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○育成会研修会 大人に対して、レクレーション手法や子ども会の在り方等について学ぶ機会を提供した。指導者の育成や、子どもが主体となる子ども会活動を推進するため、研修会等を通じて、引き続き啓発を図る必要がある。 ○新子ども会リーダースクール 次年度に、子ども会役員の対象となる小学4・5年生を対象として子ども会活動の意義や子ども会行事の企画立案方法等を学ぶ機会を提供するため実施しているが、令和7年度は参加申込が2名のみと少人数のため中止した。実施内容や開催時期などを見直す必要がある。 ○市子連と連携して取り組みを進めるとともに、市子連ホームページを活用しながら、子ども会運営に役立つ情報提供を行った。研修会の実施や、市及び市子連ホームページを活用しながら、地域子ども会活動への理解と活動の充実へ繋げる必要がある。
担当課	生涯学習課

基本事業名	読書活動の推進				
めざす姿	本に触れる機会や読書を通じて学ぶ機会が増加しています。				
成果指標	図書館の年間利用者数				
	現状値				目標値
	R6	181千人	R7	184千人	195千人
	図書館の設備・資料の満足度				
	現状値				目標値
R6	88.9%	R7	87.8%	90.0%	

主な取組	図書館における読書環境の整備と図書資料の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な設備更新による施設の機能改善・維持に努める。 ○図書資料、視聴覚資料の定期購入に努める。 ○図書資料の相互貸借（県・他自治体）や図書館広域利用の周知を行い、利用者サービスの充実に努める。 ○郷土関係図書資料の充実に努める。 ○各年代層への図書館イベントの開催、周知に努める。 ○電子図書館図書サービスの周知を図り、利用促進に努める。 ○読書バリアフリーの推進に努める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○相互貸出冊数 1,819冊、借受 931冊 （R6 貸出：1,774冊、借受：1,021冊） ○郷土資料蔵書冊数 1,896冊（R6：1,860冊）のうち 「郷土の作家コーナー」資料 571冊（R6：557冊） ○電子図書館の年間利用者数 1,775人（R6：2,067人） ○各年代層への読書推進関連イベントを実施 15回（R6:14回） ○点字・大活字図書冊数 1,676冊（R6：1,561冊）
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土関係図書資料の購入と寄贈により、資料の充実に努めることができた。 ○図書館利用者数は増加しているが、貸出冊数は減少しているため、魅力ある図書の充実に努めていく必要がある。 ○電子図書館の利用者及び貸出冊数は減少している。 電子図書館利用の啓発活動を進めていくと併せて、電子図書資料の充実に努めていく必要がある。
担当課	文化・スポーツ振興課

主な取組	子どもの読書活動の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度より、新たに3歳児を対象とした「セカンドブック」を実施し、乳幼児期の親子を対象とした「ブックスタート」と併せて、就学前の子どもたちが本にふれあう機会を提供していく。 ○各小中学校への配本サービスを実施し、子どもの読書活動の推進に努める。

	<p>○学校図書館や学校図書コーディネーター等と連携し、小中学校向け読書活動推進事業や読書リーダー養成講座の推進、学校図書司書研修会等を実施する。</p> <p>○「おはなし会」等のイベントの充実に努め、幅広い年代の市民に読書の楽しさを伝えられる読書活動の推進に努める。</p> <p>○プロスポーツ選手等から本を紹介していただくことで、子どもたちが本に接する機会を増やし、夢を育んでいくことに繋がられるように努める。</p> <p>○読み聞かせ活動を推進するため、ボランティア育成・支援を行う。</p> <p>○放課後児童クラブ、放課後デイサービス等で団体貸出サービスが一層活用されるよう、周知に努める。</p> <p>○毎月23日の『子ども読書の日』の周知を図り、家庭での読書活動をすすめていくための啓発に努める。</p>
<p style="text-align: center;">実 績</p>	<p>○ブックスタート 参加率 58.3% (R6 : 57.1%)</p> <p>○セカンドブック 参加率 31.9%</p> <p>○出張ブックスタートの実施 (筑紫コミュニティセンター)</p> <p>○学校向け配本サービス 貸出冊数 1,087 冊 (R6 : 890 冊)</p> <p>○学校図書司書研修会を実施 (5月、11月)</p> <p>○読書推進イベント 参加者数 1,971 人 (R6 : 1,062 人)</p> <p>○おはなし会 参加者数 481 人 (R6 : 427 人)</p> <p>○プロスポーツ選手から紹介いただいた本の貸出、子供たちへのメッセージパネルを市内小中学校に掲示</p> <p>○はじめての読み聞かせボランティア講座を開催 (8月、11月)</p> <p>○放課後児童クラブ等各種団体への団体貸出 貸出冊数 11,404 冊 (R6 : 12,757 冊)</p> <p>○図書館公式 SNS にて、毎月23日に『子ども読書の日』であることを周知し、読書活動推進イベントを紹介。</p>
<p style="text-align: center;">成果・課題</p>	<p>○ブックスタート、セカンドブックについては、効果的な SNS の活用や健診会場での周知方法を検討し、参加率の向上を図る必要がある。</p> <p>○学校向け配本サービスにより、授業や児童生徒が必要とする資料を提供することができており、学校への貸出冊数は増加しているが、学校間の利用状況に差があるため、今後もより一層、学校図書コーディネーターと連携し、小中学校での読書活動の推進に努めていく必要がある。</p> <p>○学校図書司書研修会を通じて、学校図書司書間の情報交流や市民図書館からの専門的、物的支援の充実に努めていく必要がある。</p> <p>○幅広い年代の市民に向けた読書推進イベントを実施することができた。</p>
<p style="text-align: center;">担当課</p>	<p>文化・スポーツ振興課</p>

基本事業名	生涯学習施設の利用促進				
めざす姿	安全で快適に学ぶことができる施設となっています。				
成果指標	社会教育施設の満足度				
	現状値				目標値
	R6	79.6%	R7	81.4%	88.0%
	市の施設を活用して生涯学習をしている市民の割合				
	現状値				目標値
R6	28.5%	R7	26.4%	38.5%	

主な取組	安全・安心な学習施設の整備促進				
具体的な取組	○日常的に点検等を行うことで施設の状況を把握し、利用者が安全かつ安心して利用できるように学習施設の維持に必要な整備・補修等を行う。				
実績	○日常的に点検等を行い、修繕等を行った。また、公共建築物等長寿命化計画に基づき、年1回の定期点検及び年1回の劣化度調査を行った。				
成果・課題	○日常的に点検を行い、施設の老朽箇所等の修繕ができた。施設の経年劣化が進んでいるため、今後計画的な修繕について検討する。				
担当課	生涯学習課				

主な取組	老朽化した機械設備等の計画的な更新				
具体的な取組	○老朽化による機械設備の不具合については、優先度等をもとに、計画的な機械設備等の更新を行う。				
実績	○日常的に点検等を行い、電気設備、機械設備等の修繕を行った。				
成果・課題	○施設の設備全般が耐用年数を経過しているため、今後計画的な設備更新に向けて検討する。				
担当課	生涯学習課				

主な取組	学習施設の効果的な管理・運営				
具体的な取組	○生涯学習センターの総合受付・施設管理を業務委託することにより、利用者の意見等を反映した管理・運営を行う。				
実績	○受付・清掃・施設管理の業務委託を行った。				
成果・課題	○受付・清掃・施設管理業務委託により、利用者からの様々な要望への対応や細やかな配慮が可能となり、効率的かつ柔軟な施設の管理運営ができた。引き続きより効果的な管理運営を検討する。				
担当課	生涯学習課				

目標 6 歴史の継承と文化の振興

【めざす姿】

市の歴史・文化に関心を持つ市民が多くなっています。
歴史・文化・芸術活動に多くの市民が取り組んでいます。

基本事業名	文化財の保護・利活用の推進				
めざす姿	史跡等の文化財が適切に保護され、触れることができるよう整備されています。				
成果指標	市内の文化財指定件数（累計）				
	現状値				目標値
	R6	42 件	R7	43 件	41 件
	市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数（累計）				
	現状値				目標値
R6	12 箇所	R7	12 箇所	12 箇所	

主な取組	文化財指定の推進によるその保護と継承
具体的な取組	○地域に存在する未指定文化財の把握と指定に努める。
実績	○「銚之記」を市指定有形文化財（古文書）に指定した。 これにより文化財指定を 1 件追加した。
成果・課題	○市内の未指定文化財の把握・調査に取り組んでいる。 今後も、文化財指定を推進することによりその保護と継承に努める必要がある。
担当課	文化財課

主な取組	文化財の保護とその公開
具体的な取組	○発掘調査を遂行し、その記録を作成し公開する。 ○古文書、映像資料、民俗資料等の収集・保存に努める。
実績	○各種開発事業に伴い、①以来尺遺跡（第 3 次：筑紫）、②以来尺遺跡（第 4 次：筑紫）、③野黒坂遺跡（第 8 次：針摺中央）の発掘調査を実施した。 ○①野黒坂遺跡第 4 次調査、②大宰府条坊跡第 3 4 0 次調査の発掘調査報告書を刊行した。 ○歴史博物館では 11 件の文化財の寄贈を受け、保存した。
成果・課題	○発掘調査を実施し、文化財を記録として保存した。 ○報告書刊行計画に基づき計画的な報告書作成に取り組んだ。 今後も、引き続き業務全体の調整を行い、各取り組みのバランスに配慮する必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ○世代交代に伴い家庭に眠る文化財が処分されている恐れがある。 ○歴史博物館の収蔵スペースには限りがあるため、今後の受け入れについて検討が必要である。
担当課	文化財課

主な取組	開発行為等に伴う文化財の保護
具体的な取組	○地理情報システムを活用し、開発行為等により破壊される恐れがある埋蔵文化財に対し、適切な保護措置を講じる。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な保護措置を講じるため、地理情報システムを活用して窓口相談及び開発事業者との事前協議を行った。 ○埋蔵文化財の窓口相談 1,882 件に対応し、161 件の事前協議を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓口相談件数（参考） R6：1,910 件、R5：1,818 件、R4：1,926 件、R3：1,620 件 ・事前協議件数（参考） R6：146 件、R5：183 件、R4：223 件、R3：174 件
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○開発等に伴う埋蔵文化財に関する窓口相談や事前協議に迅速に対応できている。特に、現在までの開発事前協議 24,484 件のデータを登録している地理情報システムの活用により、新規案件に対して、過去の調査履歴や協議経過などの概要を迅速かつ的確に確認することができるようになり、より適切な対応が取れている。 ○地理情報システムは、保守・点検を適切に行い、安定した運用環境を維持していく必要がある。
担当課	文化財課

主な取組	計画的な文化財の整備と活用の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○五郎山古墳は、さらに活用されるよう、広く認知度を高める事業を展開する。 ○宝満山は、保存活用計画に基づき、計画的に史跡の保存活用事業を推進するため、史跡の保存活用の基礎となる史跡地の測量を国庫補助事業として実施する。 ○阿志岐山城跡は、保存活用計画の策定を進める。 ○市内の文化財について、計画的に解説板の設置・改修を行う。 ○豪雨災害等によって被災した文化財の災害復旧工事を行う。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○五郎山古墳 <ul style="list-style-type: none"> ・パープルプラザフェスタにおいて、五郎山古墳に特化したブースを設置し、イベントを行った。 ・古墳館の案内パンフレットや解説チラシをアピールのため増刷し、配布を行った。 ・五郎山灯ろうまつりにあわせて初めて臨時夜間開館し、可動式石室模型の体験、展示の見学をした。 ・五郎山古墳館で未就学児を対象とした石室模型体験イベント、コ

	<p>ミセン事業と連携してストーンアートを中心とした小学校低学年向けのイベントを行い、認知度を高め活用の幅を広げる取り組みを広げた。</p> <p>○宝満山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助を受け、史跡地の地形測量図を行った。 ・保存活用計画に基づき、管理団体である本市・太宰府市に加え地権者の三者で合同巡視を行った。また、各市で作成している史跡の解説リーフレットを相互に配架し、活用の促進に取り組んだ。 ・博物館において、修理を終えた市指定文化財「紙本著色宝満山入峯絵巻」を中心とする「宝満山入峯絵巻の世界—宝満山と修験」を開催した。 <p>○阿志岐山城跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6・7 年度の 2 ヶ年事業で、取り組んだ保存活用計画について、委員会 4 回とパブリックコメントを実施し、計画を策定した。 <p>○市内の文化財については、解説板の改修を 1 件行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田宿解説板（JR 原田駅前）の改修を行った。
<p>成果・課題</p>	<p>○五郎山古墳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パープルプラザフェスタで五郎山古墳に特化した取組を行うことにより、博物館に住まいが近い小学生や、当フェスタに来場した歴史学習を目的としない市民にも五郎山古墳の魅力を伝えることができた。 ・五郎山灯ろうまつりに伴う臨時夜間開館では、灯ろうを作成した小学生が家族へ古墳について説明する姿もあり、より広く五郎山古墳の魅力について伝える取り組みとなった。 ・今年度実施した様々な取り組みは五郎山古墳の活用を図る上で有効な手段であり、今後も工夫しながら取り組む必要がある。 <p>○宝満山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存活用計画に基づき、計画的な史跡の保存・活用を推進している。令和 8 年度以降も、管理団体や地権者が共同して巡視や情報の公開に努める。また、史跡の保存活用のために必須である遺跡の測量図の作成について、国庫補助金を活用して複数年計画で実施している。令和 7 年度から開始し、今年度は地形測量図を作成した。 <p>○阿志岐山城跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画どおり保存活用計画策定が完了した。次年度より保存活用計画に基づいて、定期的な現地の公開や活用に取り組む。 <p>○市内の文化財は改修を 1 基行った。今後も、計画的に解説板等の新設・改修を行っていく必要がある。</p>
<p>担当課</p>	<p>文化財課</p>

基本事業名	歴史学習の機会提供				
めざす姿	博物館等での学習機会の充実により、市や地域の歴史と文化を学ぶことができるようになっていきます。				
成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数				
	現状値				目標値
	R6	15,816人	R7	18,038人	20,000人
	歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数				
	現状値				目標値
R6	5,951人	R7	6,040人	4,000人	

主な取組	学習支援の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史博物館において郷土の歴史や文化に関する企画展や歴史講座、イベントを実施する。 ○歴史博物館の貸出資料やパッケージ資料を学校や地域の歴史学習の場へ貸し出す。 ○学校や地域の歴史学習の場へ専門的な知識をもった職員を派遣する。 ○SNSを利用した歴史学習の機会提供を行う。 ○歴史文化に関する団体やボランティアの育成、支援に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土の歴史や文化に関する企画展や講座を実施する <ul style="list-style-type: none"> ・企画展 2回 入場者数 6,144人 ・ロビー展 11回 9,267人 ・前畑遺跡国史跡指定記念講演会 95人 ・国史跡指定記念 古代史トークセッション in 筑紫野 「歴史探鼎談～朝まで語りたい前畑遺跡～」 249人 ・文化財職員による歴史講座「文化勲道」 9回 281人 ・しつとこ九博（展示解説講座） 3回 123人 ・博物館で昔の道具を体験してみよう 11回 590人 ・夏の体験イベント in 博物館 4回 50人 ・春・夏の体験イベント in 五郎山古墳館 1,449人 ・五郎山古墳館ブースで装飾古墳に親しもう！ パープルブラザフェスタ 来場者数 986人 ○歴史博物館の貸出資料やパッケージ資料を学校や地域の歴史学習の場へ貸し出す <ul style="list-style-type: none"> ・五郎山古墳の壁画に学ぼうセット 11回 335人 ・五郎山古墳見学 2校 5回、夏の装飾古墳アート in 博物館 4回 ・山家岩戸神楽セット 4校 429人 ・七郎兵衛と鉄砲用水セット 1校 15人 ・昔の道具 4校 297人 ・公立保育所4園への戦時資料の貸出し 17件 408人
実績	

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他収蔵資料の貸出し 31件 218点 ・写真資料の貸出し 30件 332点 ・資料の閲覧・複写 42件 354点 <p>○学校や地域の歴史学習の場へ職員を派遣する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域等への講師の派遣 30件 1,106人 ・高校のインターンシップ 1校 3人 <p>○SNSを利用した歴史学習の機会の提供を行う</p> <p>あなたの街の文化財 34回 398人</p> <p>○歴史・文化に関する団体やボランティアの育成、支援に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館ボランティア活動 45回 174人 うち、ボランティアの対象講座等 3回 20人 ・博物館登録団体の活動支援 つくし郷土史会 9回 198人 古文書を読む会 42回 331人 ・その他歴史学習団体の支援 4回 136人 ・問い合わせの対応 320人
<p>成果・課題</p>	<p>○企画展や講座の実施については、企画展は2回の実施となった。春・夏と企画展が実施できなかった要因としては、経験がある博物館学芸員が不在のためである。文化財を活かした展示や事業を行うためには、本市の歴史や館蔵資料等に精通し、企画のできる人材が必要である。講座については、歴史講座「文化薫道」を全9講座とし、そのうち3講座を二日市東コミュニティセンター・筑紫南コミュニティセンター・山家コミュニティセンターで実施するなど、郷土の歴史や文化を学ぶ機会を充実させるとともに、受講しやすい環境づくりを行うことができた。</p> <p>○貸出用パッケージ資料については、昨年より貸出校が増え、学校の利用が定着しつつある。新たな貸出用パッケージ資料の作成を計画し、貸出資料の充実を図りたい。</p> <p>○小学3年社会科「わたしたちの市の歩み」を支援することを目的に、冬に企画展「筑紫野市のうつりかわり展」と体験学習「博物館で昔の道具を体験しよう」を令和5年度から実施している。「昔の道具の貸出」と合わせて行い、学校の事情に応じて選択して体験できるようにした。今後も事業を推進していきたい。</p> <p>○学校や地域へ、要請に応じて職員を派遣した。派遣できる職員の育成を継続して図りたい。</p> <p>○「あなたの街の文化財」と題して、SNS(X)を利用し収蔵資料について学習情報を発信した。身近なツールで学習できる機会として今後も継続していきたい。</p> <p>○歴史文化に関する団体やボランティアへ、会場の提供や活動を支援することで、郷土の歴史や文化を学ぶ機会を提供できた。今後も支援を継続していきたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>文化財課</p>

基本事業名	芸術文化活動の推進				
めざす姿	文化・芸術の実践、鑑賞等を通じて、豊かな感性が育まれています。				
成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数				
	現状値				目標値
	R6	2,978人	R7	3,358人	1,130人
	文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数				
	現状値				目標値
R6	7,723人	R7	6,129人	7,676人	

主な取組	文化・芸術の振興
具体的な取組	<p>○文化・芸術に関わる人や団体が活動し発表できる機会の提供に努める。</p> <p>○学校教育における文化・芸術に触れる機会の創出（アウトリーチ事業）に努める。</p> <p>○文化・芸術情報の発信に努める。</p>
実績	<p>○文化活動への支援及び情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑紫野市役所内展示スペースでの作品展示の支援 日時：令和7年3月25日（火）～4月8日（火） 日時：令和8年3月 ・ちくしの芸術祭（会場提供、イベント準備）への支援 日時：令和8年3月14日（土）～15日（日） <p>○文化団体及び学校教育における県主催事業などの情報提供</p> <p>○市民図書館ホワイエにおいて、地元画家の作品展示及びイベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 令和7年7月16日（水）～8月15日（金） 令和8年1月29日（木）～2月15日（日） ・七夕イベント 令和7年7月1日（火）～7月12日（日）
成果・課題	<p>○文化団体が行う、文化・芸術活動への支援及び連携を行い、市民の方が文化・芸術に触れる機会を設けることができた。</p> <p>○多くの市民の方が、文化・芸術に触れられる企画の確保を図っていく必要がある。</p>
担当課	文化・スポーツ振興課

主な取組	人形劇のあるまちの推進
具体的な取組	<p>○「ちくしの人形劇まつり」の充実を目指す。</p> <p>○コミュニティセンターなどでの地域公演の支援に努める。</p>
実績	<p>○「第23回ちくしの人形劇まつり」の開催 日時：令和7年11月30日（日）</p>

成果・課題	<p>○昨年度より、多くの方に観劇していただくことができた。</p> <p>○出演していただく劇団員や実行委員の高齢化が進んでおり、後継者の育成に繋がる取組を検討していく必要がある。</p> <p>○より多くに市民の方が、人形劇に触れる機会を増やすことができるように人形劇まつりの開催方法等の検討を行い、令和8年度からは、実施会場を二日市東コミュニティセンターに変更する。</p>
担当課	文化・スポーツ振興課

主な取組	文化会館を拠点とした文化・芸術活動の推進
具体的な取組	<p>○文化会館をプラットフォームとした文化・芸術活動主体との連携に努める。</p> <p>○文化会館の計画的な施設改修やバリアフリー化、長寿命化対策に努める。</p> <p>○各コミュニティと連携し、地域での文化・芸術活動の推進に努める。</p>
実績	<p>○文化会館との連携</p> <p>文化・芸術イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第40回名曲コンサート ミュージカルとオペラの祭典 魅惑のバリトンとマイフェアレディ 日 時：令和7年11月23日（日・祝） 参加者数：677人 ・第22回ちくしの寄席 立川生志“ふるさと応援”落語会 日 時：令和8年2月15日（日） 参加者数：290人 ・ちくしのプラスフェスタ Vol.7 日 時：令和8年3月29日（日） 参加者数：741人
成果・課題	<p>○年間を通して、世代を問わず文化・芸術に触れる機会の充実を図ることができた。</p> <p>○文化会館は、開館から40年が経過し、老朽化が進行していることから、計画的な改修を推進する必要がある。併せて、バリアフリー化の充実にも取り組む必要がある。</p> <p>○幅広い世代が、文化・芸術に触れる機会を確保するため、事業の継続的な実施が必要である。</p> <p>○令和8年度の文化・芸術活動の実施に向けて各コミュニティや関係団体と協議調整を進め、連携体制の構築を図った。</p>
担当課	文化・スポーツ振興課

目標7 人権尊重のまちづくり

【めざす姿】

人権が侵害されない市民生活ができるようになっていきます。
性にかかわらず、すべての人の人権がまもられるとともに、女性が社会で活躍できるようになっていきます。

基本事業名	人権教育及び啓発の促進			
めざす姿	誰もが他者の人権を尊重できるようになっています。			
成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合			
	現状値		目標値	
	R6	4.0%	R7	3.7%

主な取組	人権・同和教育の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科学習カリキュラムを活用した授業を全小・中学校で実施する。 ○学校における差別事象の発生防止に努め適切な対応を行う。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科学習カリキュラムを活用した授業 <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度実施率 100% ○学校における差別発言など事象が発生した場合の連絡・報告体制を整備し、発生時には速やかに状況把握を行い、発生防止に向けた助言・指導を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場における差別事象の報告件数 R6年度 ⇒ 28件 R7年度 ⇒ 38件
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○全小・中学校で社会科学習カリキュラムを活用した授業が実施された。今後もこの取組を継続していく必要がある。 ○差別事象の発生防止にかかる助言・指導等を行うことができた。今後もこの取組を行うことを通して、子どもや保護者の人権感覚を育てていく必要がある。
担当課	教育政策課

主な取組	人権・同和教育推進体制の充実
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○筑紫野市同和教育研究会への加入促進を図る。 ○関係機関・団体との連携強化に努める。 ○同和教育推進5中学校区事業補助事業により、各中学校ブロックの同和教育の推進を図る。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○非会員を含めた全職員を対象に定期的に活動報告（行政部会ニュース）発信を行い、学習内容の周知とともに会員募集を随時行った。また、筑紫野市同和教育研究会行政部会が実施する館外研修については、非会員の若手職員に対しても参加呼びかけを行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政部会会員：R7 ⇒ 206 人 (R6 ⇒ 203 人) ・ 館外研修参加者 ⇒ 7 人 (うち非会員の若手職員 ⇒ 1 人) <p>○関係団体である筑紫野市同和教育研究会(市同研)と定期的な連絡会議を行う等、連携強化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市同研との連絡会議：R7 年度開催実績計 12 回 <p>○各中学校ブロックにおいて一人ひとりを大切にする人権・同和教育推進の充実を図るとともに、各ブロック間の地域格差を解消し、児童・生徒、教職員の人権意識を高めるために5中学校推進委員会に対して補助金を交付した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修等の参加者延べ人数 R6 ⇒ 17,928 人 R7 ⇒ 19,054 人
成果・課題	<p>○会員募集等を行ったところ、主査以上の職員の加入を90%以上という高い水準で維持することができた。今後もこの水準を維持するとともに、若年層の加入率向上に向けた取組を実施していく必要がある。</p> <p>○市同研との定期的な会議を実施し、共催事業等をスムーズに行うことができた。今後も定期的な会議を実施し、協力体制を維持していく必要がある。</p> <p>○同和教育5中学校区事業補助金を活用しながら、中学校ブロックごとの様々な実践を行うことができた。今後もこの取組を継続していく必要がある。</p>
担当課	教育政策課

主な取組	市民の人権・同和問題に対する科学的認識と理解を深めるための啓発
具体的な取組	<p>○同和問題をはじめとする様々な人権問題や新たな人権課題をテーマにした人権問題市民懇談会及び機関・団体研修を実施する。</p> <p>○同和問題啓発強調月間(7月)を中心に、講演会、街頭啓発、施設への看板や懸垂幕等の設置の取り組みを行う。</p> <p>○新たな人権課題を含む様々な人権問題の解決に向けた人権・同和問題啓発冊子を発行し、その活用促進を図る。</p> <p>○客観的な検証のために、市民が集まる講演会などの機会をとらえながらアンケートの実施に努める。</p>
実績	<p>○市民懇談会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (市民懇談会) 実施行政区：82 参加人数：2,264 人 ・ (機関・団体研修) 実施団体：19 参加人数：537 人 ・ 同和問題をテーマにした研修実績 12 件 (昨年度 11 件) <p>○様々な啓発の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 <ul style="list-style-type: none"> 同和問題講演会 日時：令和7年7月19日(土) 講師：阿久澤麻理子氏 テーマ：同和問題 講演会参加者数 669 人 人権・同和問題講演会

	<p>日時：令和8年2月21日（土） 講師：ジェレノー治美氏 テーマ：同和問題 講演会参加者数 575人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：令和7年7月1日（月） 場所：主要駅8箇所 第2回：令和7年7月11日（金） 場所：商業施設6箇所 ・看板、懸垂幕等の設置 <ul style="list-style-type: none"> 場所：55箇所（市内の公共施設等） 期間：令和7年6月30日（月）～令和7年8月1日（金） <p>○啓発冊子の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月 同和問題啓発冊子「解放への一步」（全戸配布） ・12月 広報ちくしの「人権問題特集号」（全戸配布） ・3月 人権作文集「くさび」（PTAを中心に配布） <p>○啓発冊子の認知度にかかるアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度7月講演会（回収数360枚） <ul style="list-style-type: none"> （解放への一步）知っている→63% 知らない→37% （特集号） 知っている→68% 知らない→32% （くさび） 知っている→83% 知らない→17% ・R6年度2月講演会（回収数269枚） <ul style="list-style-type: none"> （解放への一步）知っている→65% 知らない→35% （特集号） 知っている→67% 知らない→33% （くさび） 知っている→87% 知らない→13% ・R7年度7月講演会（回収数403枚） <ul style="list-style-type: none"> （解放への一步）知っている→61% 知らない→39% （特集号） 知っている→56% 知らない→44% （くさび） 知っている→76% 知らない→24% ・R7年度2月講演会（回収数320枚） <ul style="list-style-type: none"> （解放への一步）知っている→63% 知らない→37% （特集号） 知っている→64% 知らない→36% （くさび） 知っている→83% 知らない→17%
<p>成果・課題</p>	<p>○市民懇談会や機関・団体研修を実施するとともに、同和問題をテーマにした研修が昨年度より減少する状況となった。今後は改善に向けた取組を行っていく必要がある。</p> <p>○可能な限り同和問題啓発強調月間を中心にした啓発活動を行うことができた。今後もこの取組を継続していく必要がある。</p> <p>○インターネット上の人権侵害等にかかる内容を啓発冊子に掲載することができた。今後もこの取組を継続していく必要がある。</p> <p>○講演会を活用して啓発冊子の認知度にかかるアンケート集約を実施した。今後もこの取組を継続していくとともにアンケート結果を客観的な検証につなげていく必要がある。</p>
<p>担当課</p>	<p>教育政策課</p>

主な取組	地域における啓発サポーター養成の取組み
具体的な取組	○地域における人権尊重のまちづくりを推進する人材の育成に向けて「人権尊重のまちづくりサポーター養成講座」の内容の充実を図る。
実績	○地域における市民啓発の担い手となり得る人材の育成のため「人権尊重のまちづくりサポーター養成講座」を年5回（館外研修を含む）開催した。 ・R7年度延べ受講者数：175人
成果・課題	○昨年度に引き続き、今年度も年5回の講座を行うことができた。 今後もこの取組を継続するとともに、新規受講者を増やすための案内や声かけを行っていく必要がある。
担当課	教育政策課

教育委員会点検・評価報告に関する意見

学校法人麻生学園 麻生学園小学校 教頭 税田雄二

1. はじめに

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、筑紫野市教育委員会が令和6年度に実施した事業について点検・評価したものをまとめたものです。前出の法律第26条の2項には、「点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」とあり、誠に僭越ではありますが、昨年に引き続き、私が学識経験を有する者に任じられましたので、ここに報告された内容について意見を述べさせていただきます。

2. 全体を通して

昨年9月に中央教育審議会の教育課程企画特別部会から次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理」が公表されました。今後の改定に向けて、論点整理では3つの論議の方向性が示されました。その3つとは、①「主体的・対話的で深い学び」の実装②多様性の包摂③実現可能性の確保です。

どれも、各地方自治体の教育委員会を中心に、各学校で現行の学習指導要領に基づいて全力で取り組んでいることですが、実現はたやすいことではありません。微力ではありますが、私立小学校で教育活動に関わらせてもらっている私を感じるのは、真の実現に向かうためには、この3つの方向性に向かう基盤が必要だと感じます。その基盤とは、『「みんな」で育む』ことではないかと思います。「みんなの学校」で全国的に有名になった大阪市立大空小学校の初代校長木村泰子先生が、ある教育雑誌で「次期学習指導要領の論点整理で一番目にとまった言葉が『「みんな」で育む』という言葉です。」と述べられました。ここで言う「みんな」とは、「教職員・子ども・保護者や地域住民・地方公共団体の職員・民間の担い手」と論点整理に書かれています。つまり、学校のなかに教職員以外の多様な大人がいることが当たり前前の学校文化を進化させて、子どもが周りの大人は「みんな」味方だと実感する環境をつくるのが大切になります。

筑紫野市では、これまで、学校教育と社会教育が連携・協力を越え、互いの場や活動を重ね合わせ、一体となって児童・生徒の教育や地域の活性化に取り組んでこられました。これらの教育活動の積み上げの結果、児童・生徒の保護者は、自分の子どもや知っている子どもの成長だけでなく、周りの子ども達の成長も自分のことのように喜んでくださいます。ゲストティーチャーやサポーターの皆さんは、子ども達の学びのよさを褒めてくれ、子ども達が様々なことに興味関心をもち、自分の「好きなこと」や「得意なこと」を見つけ探究していくきっかけをもたらしてくださっています。まさに、筑紫野市の周りの大人は子ども達の「味方」です。

筑紫野市では、これまで育てこられた恵まれた教育基盤を大切に、次期学習指導要領が向かう方向を見据えながら、さらなる進化を目指されることを願っています。

さて、本報告書においては、筑紫野市教育委員会が第7次筑紫野市総合計画及び教育施策大綱をもとに、教育振興基本計画で示した施策を具現化するために、筑紫野市としてどのような取組を行ったのかを明らかにされています。施策の点検・評価については、各施策について、「基本事業名」「めざす姿」「成果指標」「主な取組」「具体的な取組」「実績」「成果・課題」「担当課」の項目で構成され、昨年に引き続き、さらなる工夫改善のための意気込みと謙虚さが感じられる内容でした。

全体を通して感じることは、筑紫野市の児童・生徒、筑紫野市で学ぶ学生のことを真摯に考えられていることです。そして、筑紫野市教育委員会の組織としての総合力を発揮し、組織的、計画的な事業遂行に向かおうとされていることに敬意を表しますと共に、高く評価させていただきます。

3. 施策の点検・評価についての見解

【目標1 子育て支援の推進】

幼児教育・保育の充実として、近年、放課後の留守家庭を支援することに重点が置かれています。放課後児童クラブの運営をNPO法人ちくしっ子ネットワークへ委託し、運営上の課題解決に向けた協議をその都度行い、クラブ運営を図ったことが、待機児童を生み出さないことに繋がったと考えます。特に令和5年度以降、毎年100名程度の入所児童が増加していることは素晴らしいと思います。また、特別教室等の活用促進に努めたことによって、施設の老朽化対策に係る整備計画の策定に向かうことにつながったと思います。

【目標2 学校教育の充実】

教育環境の整備に関しては、「学校施設管理マニュアル」を基に、日常的な点検・修理を行い、年1回の「定期点検」及び「劣化調査」により、学校施設の維持管理上の不具合による支障は全くないことがわかり、安全で快適に学べる教育環境が整備されました。今後も、小中学校体育館の空調設備の整備を含め、老朽化した施設・設備の計画的な改修・更新を継続されることを期待します。

教職員の資質向上と働き方改革については、児童・生徒と向き合う時間が確保できていると思う教職員の割合が維持できていることが、高く評価できると思います。これは、校務運営システムの導入や中学校の自動採点システムの導入等による校務DX化の推進に加え、部活改革やスクールサポートスタッフの活用等の取組の推進を図られたことによるところが大きいと思います。また、指導力向上のための校内研修の充実について、指導主事を派遣した研修が前年度比100%増、人権・同和教育の研修の充実等、地道な取組が大いに評価できます。

確かな学力の育成については、授業でのICT機器の活用頻度も目標値に近づいていることは素晴らしいと思います。このことが学力定着につながるような活用をされることを期待します。令和6年9月に公表された「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」(論点整理)では、「デジタルとリアルのバランスを取りながら資質・能力の育成に取り組むことに留意が必要」「クラウド環境やアクセシビリティ機能を含むデジタル学習基盤を効果的に活用している学校では、多様な子供たちを包括する実践が進むとともに、多様な教材の活用や思考過程の可視化などにより、個別最適な学びと協働的な学びが促進され、主体的で対話的で深い学びの視点からの授業改善が進んでいる例も見られている。」と述べられています。今後もさらに、ICT活用と学力向上の相関に着目され、学力向上のためのICTの利活用を進めていただきたいと思います。

豊かな心の育成については、道徳教育の推進において、児童・生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業づくりに関して工夫、改善に努められ、児童・生徒の道徳的実践力の定着度が高い水準で維持できていること、また、「いじめはあってはならない」と認識している児童・生徒の割合が上昇傾向(小学校前年比1.9%増、中学校前年比3.8%増)にあることが大変素晴らしいと思います。生徒指導は学習指導と生徒指導の一体化を通して、授業のなかで行われることが理想です。令和4年に改訂された「生徒指導提要」で示された「2軸3類4層」でいうところの、第一層「発達支持的生徒指導」の核となる部分だと思います。今後も、日常の授業を通じた生徒指導と全教育活動を通じた道徳教育や人権教育をさらに充実されることを期待しています。また、スクールソーシャルワーカーの対応件数が増えました。児童・生徒が置かれた家庭環境や学校生活の課題が複雑化・多様化しているだけに、今後も課題を把握し、児童相談所や医療機関、地域福祉機関等とのネットワークを構築し、チーム学校として対応することは重要だと思います。さらには、福岡県では学びの多様化学校の設置が急速に進んでいます。筑紫野市においては、つくし学級のより一層の周知と活用を進め、いじめや不登校を生み出さない風土づくりにつながることを期待します。

健やかな体の育成については、中学校において体力定着度や健康に関する基本的な生活習慣が身に付いている生徒の割合が目標値に近づいたことが素晴らしいと思います。近年の急激な気候変動により、小学校においては熱中症指数が高く外で遊べる日が減少していることも影響していると考えられますが、健やかな体の育成のために、外遊びの推奨を図り

たいものです。また、体育館の冷暖房完備についても、昼休みの体育館開放が可能となり、災害時の二次避難所としての機能も上がるので、今後、整備が進められることを期待します。

きめ細やかな教育支援の推進については、特別支援教育担当指導主事を2名体制とし、特別教育支援員を前年度比13%増の79名を配置したことにより、障がいの特性に応じて適切な教育を提供できていることは大いに評価できると思います。また、個別の教育支援計画・指導計画についての指導助言を重ねたことによって、個別の支援計画・指導計画の作成数が77名も増加する等、大きな成果につながっていると思います。さらに、経済的な理由により就学支援が必要な児童・生徒や進学等が困難な学生への支援についても、各中学校の進路指導担当者に奨学金の説明を行い、保護者・生徒への周知を図ったことにより、高校生には、前年度比67%増の貸与ができたことは大きな成果だと思います。

地域と学校の協働促進については、全小中学校に地域学校協働推進員の配置が完了したので、今後、推進員と連携した取組を期待したいです。実際、コミュニティ・スクールによる地域連携教育活動が前年度比9%増の122件となったことは大きな成果です。その際、成果指標が示すように、地域連携教育活動は増えたが、協力してくれる市民は減るということにならないように、学校や推進員、行政職員の働き方改革との折り合いをつけながら推進していく必要があると思います。昨年度も述べましたが、このような取組は、活動に協力する人としらない人が二極化しがちなので、役割分担を細分化する等、自分ができることを無理なく続けられる体制で推進することが大切ではないかと思います。

【目標3 子ども・若者の健全育成】

子ども・若者の学習機会・体験活動の充実については、学校の授業以外の体験活動については、成果指標が示すように、児童は昨年度比2.5%増、生徒は昨年度比1.0%増と充実ぶりが伺えます。B Gレンジャー等の事業や各種講座事業が功を奏していると考えられます。近年、子ども会の会員数が減少傾向にあるので、市ホームページやSNSによる情報発信（非会員も参加できる催し物の案内、入会している人の声を伝える等）を継続していただきたいと思います。

子ども・若者が自分らしくいられる地域づくりについては、成果指標の数値が下がったところが気になります。しかし、地域学校協働活動推進員の全小中学校配置、推進員協議会の定期的開催、地域や学校関係者を対象とした研修会実施、市広報誌やホームページ等による周知等により、子ども・若者が安心して過ごせる場づくりや子ども・若者の悩み相談について、ある程度コミュニティ内で解消できているとも言えるのではないのでしょうか。今後、数年にわたり整備された体制を生かして、子ども・若者が安心して過ごせる場を充実させ、子ども・若者が相談しやすい関係を構築してほしいと思います。そのためにも、1校当たり2名以上の推進員の配置が期待されるところです。

子ども・若者が安心して健全に成長できる環境づくりについては、残念ながら少年の検挙・補導数が昨年度に引き続き目標値を大きく上回っているものの、青少年指導員を中心とした長年にわたる継続した取組に敬意を表したいと思います。夏季は雨天のため中止だったものの、冬季夜間一斉パトロールに多くの参加者があったことは、大きな成果と言えるのではないのでしょうか。また、これまで継続してきた取組に加え、インターネット上での非行が増えていることに対して、ネット犯罪被害防止に関するチラシの配布や防犯教室DVDを作成し、小中学校に配布されたことは大きな成果だと思います。近年、SNSの普及や数年前までのパンデミックにより、若者の孤独感が増している傾向があります。周りの環境を改善することでメンタルヘルスの向上も期待できますので、今後の環境づくりに関しては、「外も内も」という意識で継続されることを期待します。

【目標4 スポーツの振興】

スポーツ施設の充実については、市民ニーズの把握のためのアンケート実施は高く評価したいと思います。スポーツ施設満足度を上げるためにも、施設面では、市民の声を集約することが何よりの安全点検になると思います。

スポーツ団体・指導者・ボランティアの育成については、養成講座により養成された指導

者・ボランティア数、スポーツ・レクリエーション指導者数（有資格者）が増加し、指導者の充足度も上昇しました。これは、セミナー、講習会、研修会の実施等によるものであると考えられます。今後も、スポーツ指導者養成に関する情報発信を継続願いたいと思います。

年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進に関しては、活動や場の提供により、市民のスポーツをする機会についての受け止めが変わらず良好です。しかし、本報告書の成果指標の数字が示すように、親子でスポーツをしている市民の割合が減少する一方で、子育て世代の親子を対象とした文化・芸術に関する参加者が増加していることは、親子での休日の過ごし方の変化を表していると思います。今後、親子で参加できるイベント開催やホームページや SNS 等を活用した情報発信、スポーツ施設の冷暖房の整備等が必要だと思います。

【目標 5 生涯学習社会の推進】

学習機会の充実については、自治公民館主催事業やコミュニティセンター主催事業が、受講延べ人数に関して大きな伸びを見せています。高年大学事業を「ちくしるキャンパス」と統合したことは、多世代が交流する生涯を通じた学びの場をつくる上で大きな成果だと思っています。地域人材の育成を兼ねた本取組は、生涯学習の場の設定として好例と言えるので、ぜひ継続・発展させていただきたいと思います。また、デジタルデバイト解消のためのパソコン・スマホ講座に加え、生成 AI 活用に関する講座の実施も必要だと思っています。

地域で活躍する人材の発掘と育成については、児童・生徒の親世代をいかに巻き込むかが課題だと思っています。周知の事実ではありますが、ボランティアは、「人の役に立つことで感謝され自己肯定感を高める」上で大きな効果があると言われています。親子で参加できるボランティア等は、親子共々自己肯定感を高め、親子の絆を深める絶好の機会となり、お金のかからないレジャーにもなるのではないかと思います。

読書活動の推進については、読書推進イベントへの参加者の増加（前年度比 86%増）や図書館利用者数の増加（前年度比約 3000 人増）は著しく、大変素晴らしいと思います。今後、資料、設備の満足度を上げるためにも、電子図書資料の充実とともに、利用の啓発が期待されるところです。また、学校向けの配本サービスは、前年度比 22%増の 1087 冊、おはなし会の参加者数も前年度比 17%増の 481 人と、いくつも成果が見られました。今後も、学校図書コーディネーター等と連携し、継続して推進してほしいと思います。

生涯学習施設の利用促進については、社会教育施設の満足度が上昇し、目標値に近づきました。しかし、市の施設を活用して生涯学習をしている市民の割合が減少傾向にあるので、どんなことを学びたい時に、いつどんな場所が使えるのか、改めて市のホームページや SNS 等を利用して、周知を図る必要があると思います。

【目標 6 歴史の継承と文化の振興】

文化財の保護・利活用の推進については、「銚之記」の文化財指定は大きな成果と言えます。また、以来尺遺跡、野黒坂遺跡の発掘調査の実施、野黒坂遺跡第 4 次調査、大宰府条坊第 340 次調査の発掘調査報告書の刊行、歴史博物館で 11 件の文化財の寄贈を受け保存等、文化財の保護と継承に関しても大きな成果があったと言えます。これは、昨年同様、開発等に伴う埋蔵文化財に関する相談窓口や事前協議に迅速に対応できたことによるものと考えられます。今後も、文化財指定推進、保護、計画的な文化財の整備と活用の推進を充実させてほしいと思います。また、パープルプラザフェスタでの五郎山古墳に特化したブースの設置や五郎山灯籠まつりに伴う臨時夜間開館などは、五郎山古墳の魅力を伝えることにつながったのではないのでしょうか。

歴史学習の機会提供については、歴史・文化に関する体験学習等に参加した市民の増加（前年度比 14%増）、貸出用パッケージ資料の貸出校が増えて利用が定着しつつあること、小学 3 年社会科「わたしたちの市の歩み」の支援を目的とした企画展や体験学習、昔の道具の貸出等、学校の事情に応じて選択して体験できるようにしたこと等は評価できると思います。今後、学習会や体験学習の参加者数のみならず、資料の貸出やボランティアの育成などについても、前年度比で成果が確認できるようにされてはいかがでしょうか。

芸術文化活動の推進については、子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関する

イベント参加者の増加(前年度比約13%増)が見られたことは大変素晴らしいと思います。先に述べましたが、親子でスポーツをしている市民の割合が減少する一方で、子育て世代の親子対象の文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者は増加していることは、親子の休日の過ごし方の変化を表しているかもしれません。今後の芸術文化活動の推進のためにも、推進の核となる筑紫野市文化会館の計画的な改修や、バリアフリー化の充実に取り組まれることを期待したいところです。

【目標7 人権尊重のまちづくり】

人権教育及び啓発の推進の大きな成果として、この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合が前年度比0.3%減で目標値に近づいてきたことが挙げられます。その基盤として、全小・中学校で社会科学習カリキュラムを活用した授業実施率が100パーセントであること、学校現場における差別事象の報告件数については、昨年度比5件増の38件ではあることが挙げられます。各学校での授業の実施や差別事象への取組をきっかけに、児童・生徒だけでなく保護者も含め科学的認識を深め、差別事象の発生に歯止めをかけることにつながっているのではないかと思います。また、同和教育推進5中学校区事業補助事業による取組で研修等の参加者延べ人数が前年度比6%増の1126人増加したことは大いに評価できると共に敬意を表したいと思います。今後も、市民懇談会、同和問題講演会、人権・同和問題講演会、街頭啓発、看板・懸垂幕等の設置、地域における啓発サポーター養成の取組等は、継続して地道に実施されることを期待したいと思います。

4. おわりに

昨年度も触れましたが、令和6年12月に「初等中等教育段階における生成AIに関するガイドライン」(文部科学省初等中等教育局)が公表されました。また、令和7年9月に公表された「論点整理」(中央教育審議会教育課程課企画特別部会)でも生成AIの利活用はデジタル技術の進展に対応する重要項目として挙げられています。子ども達が「AIと一緒に探究する力」を育て、教育現場の日常的なツールとして組み込んでいく方向性が示されました。しかし、実際に活用が進めば進むほど、適切かつ批判的に活用する情報活用能力の向上が求められそうです。それは、児童・生徒の教育に関わる大人にも同じことが言えるのではないのでしょうか。今後も教育活動の充実や業務改善において生成AIの利活用は大きなウエイトを占めていくと思われまます。筑紫野市の皆様と共に時代の変化を読み取りながら取り組んでいけたらと思います。

結びに、お世話になり育てていただいた上に、昨年引き続きこのような機会を与えていただきました筑紫野市教育委員会に敬意を表し感謝の気持ちを込めて、本報告書の点検・評価を通して感じたことをお伝えします。

令和7年9月に公表された中央教育審議会「論点整理」で示された論議の3つの方向性の1つとして「多様性の包摂」が掲げられました。筑紫野市が長年紡いでこられた人権・同和教育は、まさにその先駆的な取組のひとつではないのでしょうか。筑紫野市がこれまで積み上げ、これからも継続されていく人権学習は、同和問題をはじめとする様々な人権課題と向き合い、多様性を包摂していく見方・考え方を育てていると思います。人権のシンボルと言われるネルソン・マンデラさん(南アフリカ共和国の初の黒人の大統領)の言葉を思い出します。「教育とは、世界を変えるために用いることができる、最も強力な武器である。」「人生における最大の栄光は決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある。」「……昨年に引き続き、本報告書を点検・評価させていただいて感じたのは、各部署で課題としっかり向き合っていることです。当然、成果指標の数値が下がったり、目標値から遠ざかったりした項目もありますが、昨年度の課題は、具体策が講じられ、ほぼ改善の方向に向かい始めています。今後も、筑紫野市の教育が、このような点検・評価の機会を通して常に改善し続けられることで、教育としての最大の栄光を勝ち取られ、市民一人一人の笑顔が光り輝くことを願っています。

